

# 松山市(四国ブロック)

【計画期間 平成26年11月～令和2年10月】

- ・江戸期：加藤嘉明が、石手川、重信川の水流を変え、城下町の用地を確保して町割りを行い、勝山に城郭を築いた。
- ・明治期：政治・経済の中心都市として成長し、また、俳人正岡子規をはじめ、多くの文人を排出するなど地方文化の拠点としての役割を果たす。
- ・戦後期：戦災により市街地の大部分は焼失したが、その後復興に向かう。
- ・現在：人口約51万1千人、面積429.06km<sup>2</sup>。

## 【前計画の概要】

○中央商店街における新たな商業核施設の創出や、道後温泉や松山城などの歴史的・文化的観光資源を活用しつつ、路面電車によるまちなか回遊促進を図ることにより、にぎわいのある商業のまち・観光交流のまちを実現する。(計画期間:平成20年11月～平成26年10月)

## 【中心市街地の変化】

- 前期計画では、面的な整備事業(JR松山駅周辺土地区画整理事業等)や拠点施設の整備・再生(県立中央病院整備等)をはじめ、完了している事業も多く、進捗率は高い。
- こうした取り組みの結果、「観光入込客数(主要5施設)」が増加し、「中央商店街歩行者通行量」、「小売年間商品販売額」は長期的トレンドの消費減少や、郊外部での店舗増加に伴うシェア低下を免れず、減少傾向にあったが、近年においては下げ止まりが見られる。
- ただし、若い世代の経営者にまちづくりの機運が見られることや民間の投資意欲の活発化が見られるため、2期計画では、この機会を好機と捉え、中心市街地の活性化へ繋げる。

## 【目指す中心市街地像】

1. 広域の中心にふさわしい魅力と厚みのある機能を備えた都心への再生
2. 松山独自の歴史や資源によって国内外の人から愛される観光・交流の舞台づくり
3. 住みたい、住み続けたい魅力ある暮らしの場となる暮らしやすさを実感できるまち

## ■前計画の目標

目標	指標	基準値(H19)	目標値(H26)	現況値
訪れたい都心としての機能強化	中央商店街歩行者通行量	170.5千人	195.0千人	127.9千人
	路面電車の年間乗車人数	7,287千人	7,400千人	6,866千人
「坂の上の雲」のまちづくりとまちなか回遊を活かした観光交流のまち	中心市街地内の観光客数	1,348千人	1,600千人	1,379千人
便利で、楽しい商業のまち	小売年間商品販売額	263,982百万円	264,000百万円	208,301百万円

## ■新計画の目標

目標	指標	基準値(H25)	目標値(R2)
訪れたい都心としての機能強化	中央商店街歩行者通行量	127,900人	170,600人
都市観光地としての魅力向上	観光入込客数	1,710千人	1,810千人
安心して住み続けられる豊かな生活環境の充実	中心市街地内の居住人口	18,091人	18,600人

訪れたい都心としての機能強化

【主要事業】

- ・大街道二丁目東地区優良建築物等整備事業(ラフォーレ原宿・松山跡地)
- ・まちなか子育て・市民交流事業
- ・松山アーバンデザインセンターの設置
- ・まちなか広場事業(中心市街地賑わい再生事業)

など

都市観光地としての魅力向上

【主要事業】

- ・飛鳥乃湯泉・椿の湯施設整備事業
- ・瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業
- ・観光まちづくり事業(松山はいく)
- ・道後温泉活性化事業

など

安心して住み続けられる豊かな生活環境の充実

【主要事業】

- ・松山駅周辺土地区画整理事業
- ・松山赤十字病院整備事業
- ・民間再開発による住宅整備の推進

など

# 松山市中心市街地活性化基本計画の事業概要

訪れたいくなる都心としての機能強化

## ①大街道二丁目東地区優良建築物等整備事業 (ラフォーレ原宿・松山跡地)

ラフォーレ原宿・松山跡地にホテル・商業・ブライダルの複合施設を整備し、中心商店街の賑わい拠点を目指す。

## ②まちなか子育て・市民交流事業

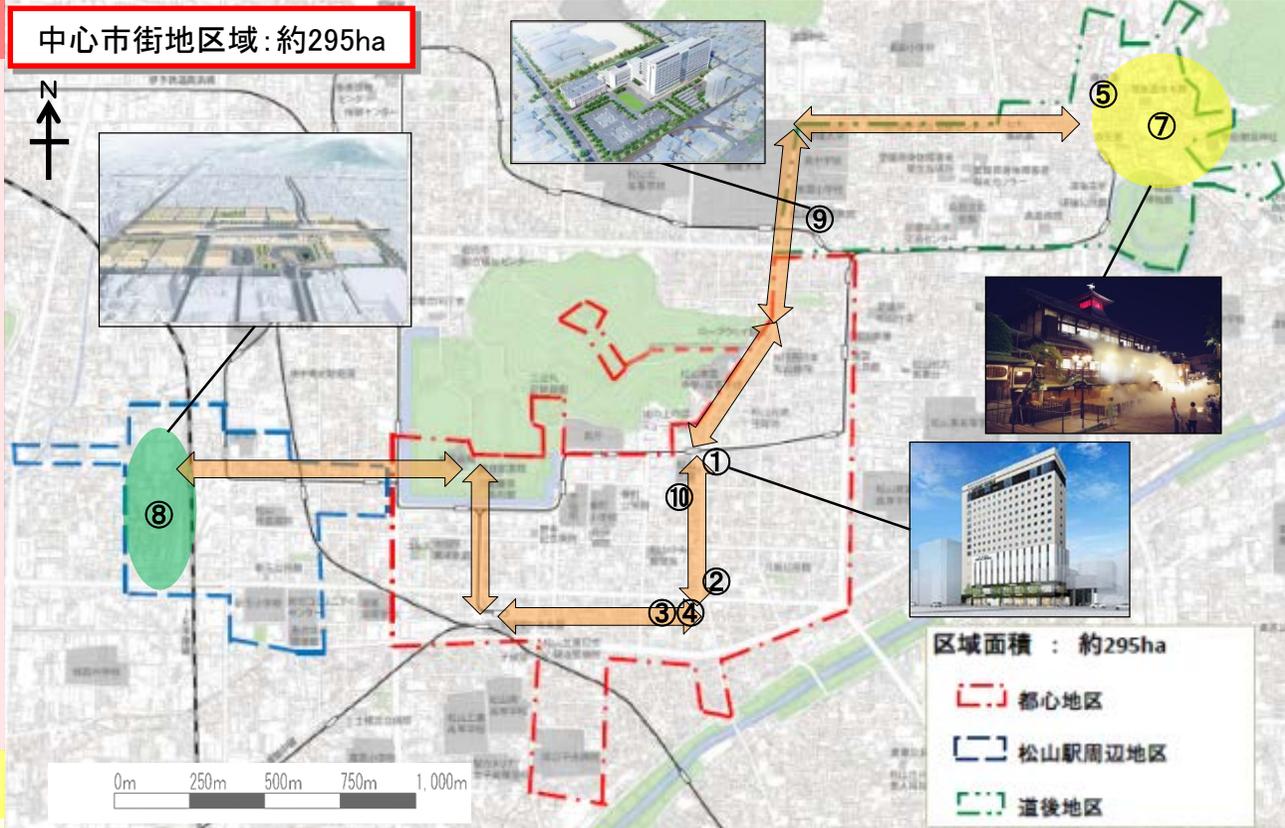
「まちコムスポットてくるん」において、イベントなどを開催することにより、更なる活性化と市民交流の一層の充実に繋げていく。

## ③松山アーバンデザインセンター[UDCM]の設置

公・民・学の連携のもと、地域主体のまちづくりを行う松山アーバンデザインセンターの拠点施設を中心市街地に設置し、常駐する専門スタッフが地域のまちづくり活動への支援を行い、さらには今後のまちづくりを担う人材の育成を図る。

## ④まちなか広場事業(中心市街地賑わい再生事業)

低未利用地を活用して広場や交流施設を整備し、賑わいイベントや担い手育成等によって、回遊性の向上を図る。



都市観光地としての魅力向上

## ⑤飛鳥乃湯泉・椿の湯施設整備事業

魅力ある浴室及び休憩室に加え、道後温泉の歴史などの情報発信スペースを備える「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」を椿の湯に併設し、歴史・文化を体感しながら保養できる交流型施設として地元の活性化に寄与する。

## ⑥瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業

広域的な行政・団体・民間の連携による事業推進や大型キャンペーン実施に向けた地域連携と営業促進のほか、着地の魅力造成及び旅行商品化促進を実施する。

## ⑦道後温泉活性化事業

道後温泉本館改築120周年を記念して、道後温泉とその周辺エリアで体験型アートイベント「道後オンセナート」等を開催する。

安心して住み続けられる豊かな生活環境の充実

## ⑧松山駅周辺土地区画整理事業

土地区画整理により、暮らしやすさを実感でき、多様性に富んだ質の高い県都の陸の玄関口に相応しいまちづくりを目指す。

## ⑨松山赤十字病院整備事業

中心市街地の北部に立地する松山赤十字病院において、機能更新を含む建て替え事業を進め、地域住民に安全で良質な医療を提供する。

## ⑩民間再開発による住宅整備の推進

優良建築物等の整備など、民間再開発による住宅整備の推進を図ることにより、居住人口の増加を目指す。